

# 静岡県現代俳句協会会報

No.128

令和3年3月25日発行



## 人とのつながり

秋本 恵美子

静岡県現代俳句協会副会長

どこまでも勝手な行動をとるのである。もしかしたら、自分自身がコロナの保菌者であるかもしれないのに。

欧米のようなロックダウン（都市封鎖）には至らないものの、市民生活は大きく制限され重大局面を迎えている。

ウイルスも怖い、もつと怖いのは、それによってもたらされる経済的な混乱と破綻である。これまでの幸せな家族、暮らしが一夜にして破綻の淵に追い込まれてしまった。失業、倒産、生活破綻等、深刻である。ワクチンに頼ってばかりでは駄目だ。

今こそ、人とのつながりを大切にしなければならぬ。

ソーシャルディスタンスを保たねばならぬ時代ではあるが、そんな時だからこそ尚更、人への思いやり、絆を深めていきたいものである。

幸い、私達には「俳句」という、言うに言われぬ宝物がある。

私は常に俳句に関わってられる幸福を感じている。「俳句があれば」と思っている。俳句に詠めないものは無い。

俳句を介して様々な方と出会えた。そのことこそ「絆」であると信ずる。今はその大・小の絆を大切に、コロナ明けの時代を謳歌しようではありませんか。

このたび、最も世間にインパクトを与えた言葉は「三密」。「現代用語の基礎知識選」の2020ユーキャン新語・流行語大賞のトップテン」が発表され、年間大賞には新型コロナウイルス感染症対策として避けるべき行動（密閉、密集、密接）を表した言葉が輝いた。

「今年の漢字」として2020を表す漢字は「密」に決まったと日本漢字能力検定協会が発表した。前年は新元号「令和」を迎えたことから「令」が選ばれた。

この「密」について、清水寺の森清範貫主は、『密』には親しむという意味がある。心の中で人とのつながりをさらに持ち、来

年はいい年であるよう祈りたい」と大勢の人々に呼び掛けた。

人とのつながり、繋がりがどういこうとだろう。辞書には、つながること、またつながったもの。結びつき、血縁関係。きづな。また、離れているものが結ばれてひと続きになること、とある。これは今の私達人間関係で一番薄れているものだ。コロナ禍の殺伐とした時代の中で、一人一人が自分勝手に思うが儘に振る舞っている。他人様に対する迷惑など気にも掛けない。

要するに自分さえ良ければ他の人はどうなるかが構わないのである。公共の施設内でも、自分はマスクをつけたくないからと

令和三年度(第三十七回)

定期総会↓役員会へ委任

令和三年一月三十日(土)  
於 静岡市「あざれあ」会館

令和三年一月三十日に予定されていた静岡県現代俳句協会総会は、新型コロナウイルスの感染状況が尋常ではなく、静岡県より外出自粛要請も出されていたことから、全員が集合しての総会の開催は回避する運びとなりました。すでに総会への委任状が出されていた方々に加え、出席予定であった会員の方々についても、「役員会」への委任がなされたという手続をもって、当日出席可能な役員により、下記の事項につき決議、報告が行われました。

静岡県現代俳句協会会員数

99名

当日出席者及び委任状提出者の数

72名

内規一条(決議要件・委任状を含め、会員の過半数をもって総会は成立する)により、総会は成立しました。

会員の皆様にはすでに、定期総会と連絡事項の資料、俳句大賞・俳句大会の募集要項、応募用紙等がお手元に郵送されていることと思えます。ご確認の程、よろしくお願いたします。

令和三年度静岡県現代俳句協会

定期総会

議事 協議事項

- (一) 令和二年度事業報告
- (二) 令和二年度一般会計報告
- (三) 令和二年度会計監査報告
- (四) 役員人事に関する件
- ① 事務局長の交代

退任 萩山 栄一  
新任 つげ 葉子

② 常任幹事新任 鈴木 邦子

幹事新任 萩山 栄一

(五) 令和三年度事業計画(案)

(六) 令和三年度一般会計予算(案)

その他連絡事項

① 第十二回「静岡県現代俳句大賞」の募集について

② 静岡県現代俳句協会「俳句大会」の募集について

③ 年会費納入のお願い

役員任期は、令和二年度に引き続き、令和三年度も継続されます。ご一文、ご承知いたしましたので、下記に掲載いたします。

【役員会構成役員】

会長 滝浪 武(静岡市)

副会長 東城 保子(沼津市)

秋本恵美子(静岡市)

鈴木あさ子(袋井市)

事務局長 つげ 葉子(浜松市)

常任幹事 花房 なお(伊豆の国市)

加用 富夫(藤枝市)

鈴木 邦子(浜松市)

編集部長 田中由美子(富士市)

会計部長 佐藤 未来(小山町)

【その他役員】

会計監査 植田しづ子(浜松市)

永井千恵子(袋井市)

特別顧問 植田 密(浜松市)

顧問 金子 徹(富士市)

植田 次男(牧之原市)

平野摩周子(湖西市)

田中 陽(島田市)

新庄 佳以(静岡市)

【地区幹事】

東部 山岸文明・望月富士・風岡俊子

渡辺郁子・渡邊弘美

中部 鈴木和枝・川崎里子・宮下艶子

阿久津明子・萩山 栄一

西部 岡部木青・喜多周子・駒田一草

羽田知行・久田洋子・松本重延

一句会 互選結果 (令和三年一月紙上句会)

- |     |                                 |       |    |
|-----|---------------------------------|-------|----|
| 11点 | 息災なり冬至南瓜を真二つ                    | 東城    | 保子 |
| 10点 | 裸木やアカペラといふ豊かさよ                  | 松本    | 重延 |
| 9点  | たとふれば行書のくらし鉄始                   | 山岸    | 文明 |
| 9点  | 誰も来ずたゞ冬薔薇の棘が刺す                  | 鈴木あさ子 |    |
| 9点  | にんげんの旅の途上においてしぐれ                | 滝浪    | 武  |
| 9点  | 真つ新になれた気がする寒九の水                 | 永井千恵子 |    |
| 9点  | 喰積や近くて遠き母の味                     | つげ    | 葉子 |
| 8点  | 再会の予感満ちくる福寿草                    | 田中由美子 |    |
| 8点  | マスクにも余所行きのあり冬薔薇                 | 松下    | 允子 |
| 7点  | 大嚏ごと抜けちゃった僕の核 <small>コノ</small> | 花房    | なお |
| 7点  | ゆつくりと生きやうと決め初日の出                | 鈴木    | 邦子 |
| 6点  | 中天の寒月つかむ梯子欲し                    | 加用    | 富夫 |
| 4点  | 塩壺がからつぽ釣瓶落しかな                   | 滝浪さち子 |    |
| 4点  | 着ぶくれの売りに声を掛けらるる                 | 秋本恵美子 |    |
| 3点  | 正月の電車待つ吾の影に惚れ                   | 植田しづ子 |    |
| 3点  | 火打石擦っても擦っても寒き霧                  | 植田    | 密  |
| 3点  | 身に入むや肉声肉筆失す時世                   | 阿久津明子 |    |
| 3点  | 命日として元日を迎へけり                    | 宮下    | 艶子 |
| 3点  | 初場所の仁王となりてはたき込む                 | 竹     | 美玲 |

(以下 割愛させていただきます。)

懐かしきかな文学散歩

コロナ禍にあつて文学散歩や句会が思うように行えない日々が続いています。編集部に残っている会報から、今回は、かつての文学散歩で詠まれた句を取り上げてみました。今年は、中部文学散歩が実現できますようにと切に願ひながら...

◆秋の丸子路 (平成22年度)

枯蟻蟻据(すわ)る宗長座禪石  
みな俳人どろどろどろどろどろ汁  
柴屋寺どの石からも秋の声

◆浜岡砂丘・御前崎灯台周辺 (平成23年度)

波音は地球の鼓動冬砂丘  
原子炉が砂丘にぬつと日向ぼこ  
石莖の花原発の海青すぎる

◆修善寺 (平成24年度)

ひとひらの紅葉をたたむ懐紙かな  
りんりんと尼將軍の冬桜  
頼家の無念を想へ冬紅葉

◆三保の松原 (平成25年度)

秋蝶の神の道へと消えにけり  
行く秋の海は大きな泪壺  
灯台の風見は天女雁渡し

◆田子の浦・かぐや姫ミュージアム (平成28年度)

土蔵の嘗て教場小鳥来る  
かぐや姫の地ぞ滾々と困炉裏に火  
蘇る母体となりて露の富士

◆日本平動物園 (平成29年度)

飢えること忘れ暮らし秋の檻  
身に入むや動物園に人の檻  
象の鼻揺れて色なき風渡る

◆浜松城 (平成30年度)

発掘の深さを覗く冬帽子  
空井戸に声なき声や石莖の花  
角少し取れて小春の野面積み

鈴木 柚  
原 百合子  
永井千恵子

原 百合子句集「烏瓜」紹介

## 詩魂に触れて

つげ 葉子

原百合子さんが満を持して第一句集『烏瓜』を上梓された。

原さんが書かれた文章を思い起こすと、「俳句を詠むということは自分自身と向き合うということ」

「私達の心をゆたかにしてくれるものは、自然に対してひらく心の深さと素直さ」

といった言葉の数々が浮かんで来る。拝見するたびに共感を覚え、本句集を貫いているものはこういったことなのだと思えてくる。

もう会へぬ蝶かも知れず翅開く  
生きて飛ぶ綿虫がゐて退院す

まくなぎを遊ばせてゐる猫の耳

小動物を対象としたこれらの句を拝見すると、生きものの命を自分に引きつけて、人間と同じ目の高さで作句されていることがわかる。

烏瓜入日の赤に負けられず

烏瓜赤に逡巡なかりけり

これらの句においては、対象物に更に深く自分自身の心象が投影されている。烏瓜

に託された、作者の静かな闘志のようなものすら感じられる。特に二句目の、烏瓜という具象から逡巡という抽象への展開はすばらしく、まさに百合子ワールド全開の一句と言えるだろう。

二・二・六迷路のやうな街に住み

重心が傾きだしたる建国日

混沌の地球へ打ちぬ鬼の豆

黙禱へ地鳴りのやうな蟬の声

このように、社会事象を詠み込んだ句も数多くある。感動の核心がしつかりとらえられ、それを的確な言葉と選びぬかれた表現に乗せている。

人の世を生きて螢に呼ばれぬる

紺碧の空より滝の生まれけり

言葉などいらすぢまで夕焼けて

寒林へやはらかき耳持ちて入る

白シャツや十三歳の志

人生を俯瞰した句、詩的飛躍のある句等々、どの句も平明で深く、しみじみと読み手の胸に響いて来る。

加藤楸邨、原田喬、九鬼あき急の師系に

連なりながら、まぎれもない原さん自身の

世界を本句集から感じとることができた。

ますますのご健吟をお祈り致します。

ようこそ静岡県現代俳句協会へ

## 新会員の紹介

今回は平成三十年八月から平成三十一年四月までにご入会された方々の作品です。

静岡市 渡邊稚江代

穏やかな一日となり寒四郎

蒼天に堂々の富士冬將軍

早春の四方眺望の夢テラス

静岡市 杉山 昌平

剪定の広げし空に緑差す

木偶の手に線香花火水永らへる

念佛の寺に自分の穴惑ひ

藤枝市 野仲とも子

団栗の大将だれも決められず

神鷄も祝ふ一声七五三

鼻の羽音立てずに舞ひ降る

浜松市 太田 依子

正月や羅漢百態笑ひ出す

原発の父の海より冬の虹

岩鼻に渦なす浪や椿落つ

令和三年度 第十二回 静岡県現代俳句大賞 作品募集要項

主催 静岡県現代俳句協会

一 趣 旨 現代の俳句を探求する方向と姿勢を持つ俳句作品を広く募集し、年度の大賞にふさわしい作品を顕彰することを目的とする。

二 対 象 協会員に限らず静岡県在住者で高校生以上の人

三 締 切 日 令和三年六月四日（金）必着

四 募 集 十句（題を付す）未発表作品（十句とも）

五 応募方法 B4判四百字詰原稿用紙の右頁に十句、右欄外に題名、左頁に作者（姓号）と本名および住所・電話・FAXを表記する。

六 投 句 料 二千元（高校生千円）定額小為替を作品と共に同封

七 選 考 選考委員会（選考委員長 滝浪 武）

八 選考委員 秋尾 敏・対馬康子（以上 現代俳句協会役員）  
滝浪 武・東城保子・秋本恵美子・鈴木あさ子  
（以上 静岡県現代俳句協会役員）

九 賞 大賞 准賞 奨励賞（若干名）

十 表 彰 静岡県現代俳句協会俳句大会（八月二十八日を予定）の席にて表彰

十一 入賞作品 表彰式に作品集を配布する。後日応募者には会報等にて通知

十二 主 催 静岡県現代俳句協会

十三 後 援 静岡県俳句協会 静岡新聞社・静岡放送

十四 投 句 先

〒420-0835 静岡市葵区横田町一番七号  
静岡県現代俳句大賞事務局 滝浪 武  
電話・FAX 054(273)7910

令和三年度 静岡県現代俳句協会 俳句大会募集要項

主催 静岡県現代俳句協会

一 日 時 令和三年八月二十八日（土）  
午後一時

二 場 所 男女共同参画センター「あざれあ」（予定）

三 募集要項

- ・ 現代俳句協会会員に限る
  - ・ 二句一組（千円）五組まで
  - ・ 未発表作品に限る
  - ・ 用紙は指定用紙（コピー可）
  - ・ 作者の氏名・住所・電話番号を記載
- 俳句二句ずつを分けて書く事
- ・ 投句料 定額小為替とし作品に同封する

四 投句締切日 令和三年六月二十九日（火）  
（早めの投句にご協力をお願い致します）

五 投 句 先 〒435-0034 浜松市南区安松町六三一  
静岡県現代俳句協会事務局

つげ 葉子 宛

六 選考と表彰

出席者全員による互選  
協会賞・優秀賞・秀作（十名程度を表彰する）

諸家近詠

与へること

静岡市 川村 敬三  
密を避け心の密の初句会

受けるより与へることよ美千両  
問ひ掛けに考の足跡木守柿

冬より春へ

浜松市 牧田 治子

極楽に父母を待たせて日向ぼこ

川二つ落合ひ春潮のみづうみへ

コロナの世に善悪はなしぬめぐり

春愁ふ

浜松市 久田 洋子

二ん月の街攻めてくるマスク人

プリズムの屈折煌ら春愁ふ

あの人の日裏日面訝返る

栞

浜松市 喜多 周子

自らを栞としつつ冬籠

鴛鴦の契りしままの湖なかば

落ちながらそれを生きると赤椿

春を待ちて

袋井市 鈴木 潤子

きつとすぐワクチン接種へ日脚伸ぶ

冬萌や若き才能のきらめき

女とか男とかなぞ牡丹雪

母の手際

袋井市 金原直保子

枇杷咲けり空家レ点の市の調査

友の庭蜜柑たわわに笑顔かな

母の手際均一に切るのし餅を

引鶴

静岡市 滝浪 武

反骨の山塊を抱き春の雲

引鶴の海ガンダーラの仏頭

春の野に漂泊ふところの立志

わが俳句工房 (91)

壬生の里

浜松市 鈴木 邦子

天竜川の鹿島橋を渡ると旧天竜市に入る。今は二俣町と名を変えたが、浜北区の外れに位置する我が家は、当時生活全般が二俣町で事足りた。

画家の秋野不矩、本田宗一郎、寿司職人のすきやばし次郎もこの町中を歩いていた、いや宗一郎はポンポンで走り回っていたかと思うと嬉しくなる。

この町は天竜川によって栄えていた。上流からの筏の中継点であった。小さな町ではあるが、映画館が三軒あり、夜中まで人声、足音が絶えなかつたとも聞く。切腹させられた徳川信康の御廟も青龍寺の奥に祀られている。

筏問屋田代家が、天竜川文化遺産として、公開されている。尺余の樗の大黒柱がどつしりと出迎えてくれる。決して豪華な建物ではないが、ここに住まいた人々の心根の良さが伝わってくる、伸びやかな、安らげる建物である。田代家は、土日祝日の公開であるが、申し込めば平日でも句会ができる。時々のおんぴりと庭を眺めに出掛ける。

# 一句鑑賞

前号の「諸家近詠」の中から

昭和史の点となりゆく敗戦日

望月 富子

静岡市 井上 花風

戦後七十余年。元号は昭和、平成、令和と移り、今年令和三年。今や八月十五日はセレモニ―と化し、戦争を語る生の声も聞かなくなった。しかし、今ある平和はあの時の、大きな犠牲の上になり立っているのではないか。昭和史の点となりゆくも、その点の意味の大きさを忘れてはならない。それを思い起こさせてくれる一句である。

たかぶりの海からの道大夕焼

永井千恵子

浜松市 植田しづ子

海を人生、夕焼をこれからの後半生として表したのでしよう。海は風の時もありますが高波の方が多いです。でも、これから歩く道は力強い大夕焼が待っています。

先年、西オーストラリアの海が夕焼で真っ赤に染まり感動した事を思い出しました。

この句は人生の大なる風景を捉えた句です。声を張り上げ鑑賞したい句です。

無意識がただよっている大水母

野口 清美

静岡市 松山 好江

無意識がただよっているという見立てに瞠目。水族館での水母には何故か癒される。作者が無意識と捉えたその無意識のようか。作者が水母の浮遊が人の心を和らげ癒すの。将又、超然と只管浮遊しているか。に見られることこそが水母の生きる術かも知れぬ。作者は水母の生態をも示唆しているのでは。意味深長な句である。

万葉の春風のいろ草木染

村松きくゑ

富士市 田中由美子

日本では古来から花や葉、根、木の樹皮等の植物染料が用いられてきた。まさに「万葉のいろ」。平仮名書きの「いろ」は、優しい風合いの草木染によく似合う。「春風のいろ」は桜色であろうか。京都嵯峨にお住まいの染色家、志村ふくみさんによると、桜色は、花が咲く直前の桜の樹皮を山からいただいて染めると、淡いようでも燃えるような強さを内に秘めた深く落ち着いた色を取り出せるそうだ。句から、えも言われぬ美しい「万葉の春風のいろ」を想像した。

## エッセイ

### ことば

富士市 望月 富子

コロナに振り回された自粛が続く毎日、テレビを見ていて許せない場面に会った。

3密を避けるために、「会食は4人まで」と悲痛な声で呼びかけているその最中に、政府の高官と著名人8人の料亭での会食現場が放映された。その中の一人は「忘年会です」とはつきり述べていた。後に、この事の弁明に当たった、政治家に唾然とした。彼は、この会食を「会食が目的ではないから許される」と言い放った。一瞬「えっ」と思ったが、テレビはそのまま流れ、言い放った彼も平然と、その場を収めることができ満足げな顔である。

3密を避ける話がいつのまにか「会食」に揺りかえられてしまった。一国を揺るがすようなこの場面でのあまりに無謀なことばの発信と、その誤魔化しを追及しないマスコミに、ことばを愛する俳句の一人として許せない気持ちが高ぶったひと時であった。

# 〔事務局だより〕

## 〔行事報告〕

令和三年度 第三十七回定期総会の実施

開催日 令和三年一月三十日(土)

開催場所 静岡市「あざれあ」

議題

・令和二年度事業・会計報告等

・役員人事に関する件

・令和三年度事業計画・会計予算等

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない中、県より外出自粛要請等も出されたため、役員会への委任をもって、総会が行われました。

## 〔行事予定〕

① 関東甲信越静岡ブロック連絡会議

開催日時 未定

開催場所 東京

② 第十二回静岡県現代俳句大賞作品募集

未発表作品 一編十句

応募締切 令和三年六月四日(金)

③ 静岡県現代俳句協会俳句大会

開催日時 令和三年八月二十八日(土)

十三時

開催場所 静岡市「あざれあ」

## 実施内容

・静岡県現代俳句大賞表彰

・俳句大会 互選七句

・俳句大会終了後、幹事会

※投句締切日 令和三年六月二十九日(火)

④ 中部文学散歩

開催日 令和三年十一月十三日(土)

会場 静岡市「もくせい会館」

吟行地 駿府城公園

## 〔役員会のお知らせ〕

日時 六月五日(土) 十三時三十分

場所 静岡市「あざれあ」

※役員の皆様、ご出席よろしくお願い致します。

## 編集室からのお願い

次号(一二九号 九月発行)の執筆予告をさせていただきます。(敬称 略)

○巻頭随想 副会長 鈴木あさ子

○わが俳句工房 幹事 阿久津明子

○エッセイ 幹事 久田 洋子

○諸家近詠(全員参加の名簿順)

石川 義倫・内田 孝子・大池 美木

鈴木 武・田中 陽・山岸 文明

山下 和子・山田 千里・渡辺 郁子

○一句鑑賞 今号(一二八号)の諸家近詠の中から一句選び鑑賞文をお願い致します。

秋本恵美子・松下 允子

城内 幸江・萩山 栄一

○新会員紹介

後藤むつ子・勝俣とみ子・武藤 光江

※詳細につきましては、別途、該当の方宛てに、七月初め頃、連絡させていただきます。

会員の皆様の中で、最近、句集を出版された方がいらつしやいましたら、編集部までお知らせください。なお、平成28年に出版された萩山栄一句集「不思議の国」はインターネットの読み放題でも読むことができます。会報充実への情報提供や御意見をお寄せくださいますようお願い致します。

静岡県現代俳句協会会報 第一二八号

発行 令和三年三月二十五日

発行人 滝 浪 武

編集人 田 中 由美子

事務局 つ げ 葉 子

〒435-0034 浜松市南区安松町六三二-1  
電話 FAX 〇五三二四六二一〇五〇八